一当社	●製品	◎海外展開	動向

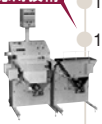
—1895 石杉社（後の共立電機株式会社）が創立。

—1900 安中電機製作所が創立。

—1931 共立電機株式会社と安中電機製作所の合併により、安立電気株式会社が設立。

◀ 無線技術、計測技術、エレクトロニクス技術の蓄積

はかり応用技術



●1961 差動トランスの原理を用いた微少変位測定器「電子マイクロメータ」を開発。

◀ 産業機械事業を開始

●1964 電子マイクロメータの技術を発展させ、重量選別機「オートチェッカ」を開発。
スーパーマーケットの普及に伴う袋詰め商品の急増を背景に、好調な売れ行き。

定量計量

◎1968 ヨーロッパ諸国への輸出を開始。

◀ 海外市場へ進出

●1969 オートチェッカの電子計量技術を応用し、自動電子計量機を開発。

◀ 製品分野の拡充

●1973 低価格戦略機のオートチェッカ「K513シリーズ」を開発。

—1975 産業機械事業部発足

▽1973:オートチェッカ累計販売 3,000台

●1977 オートチェッカ「エイトシリーズ」を開発。ヒット商品に。

◀ 日本の経済成長にともなう事業の発展期

◎1980 アジア地域への輸出を開始。

異物検出

●1981 磁気センサ技術により、
金属検出機（K470）を開発。

中国の食品工場に
並ぶ自動電子計量機

◀ 異物検査分野へ進出。
消費者が「質」を求める時代に

▽1984 オートチェッカ:累計販売 10,000台

—1985 アンリツ株式会社に社名変更

社名変更の
新聞広告

●1989 オートチェッカ「Hiシリーズ」を開発。
欧州各国の公的機関が定めた厳しい基準をパスし、輸出に拍車。

◀ 国際基準の厳格化で、
性能・機能の高度化に拍車

▽1989 金属検出機:累計販売 4,000台

●1991 金属検出機「スーパーメポリ」を開発。
ヒット商品となり、食品メーカーに急速に普及。

●1994 オートチェッカ「FCシリーズ」

●1994 自動電子計量機「クリーンカップスケール」を開発。
高付着性食品の計量を可能にし、国内外で技術賞などを多数受賞。

▽1995:オートチェッカ累計販売 30,000台

—1996 産業機械の販売会社「電子機器産業株式会社」が、「アンリツ産機システム株式会社」に社名変更

●1998 オートチェッカ「IPシリーズ」を開発。
IP66の防水防塵等級で、HACCPに適合。

◀ 食品生産ラインの
衛生管理が高度化

●1999 金属検出機「スーパーメポリII」

●2000 オートチェッカ「SVhシリーズ」を開発。
GMPバリデーションに対応し、ユニット構造による豊富なラインナップ。

◀ 食の安全への関心が高まる

●2000 自動電子計量機「クリーンマルチスケール」

X線検査

●2000 X線異物検出機を開発。X線技術、画像処理技術の幕開け。

—2002 アンリツ株式会社の産業機械事業を、アンリツ産機システム株式会社に統合

◀ 分社・独立し、より機動性の高い
事業展開のための体制へ

●2002 X線異物検出機「KD73シリーズ」

●2003 オートチェッカ「SVfシリーズ」「SViシリーズ」

●2003 自動電子計量機「クリーンマルチスケール Cube」

◎2003 中国に現地法人を設立

◀ グローバルビジネスの本格化

●2004 金属検出機「スーパーメポリIII duwシリーズ」
金属検出機「スーパーメポリIII Mシリーズ」

▽2005:オートチェッカ累計販売 50,000台

◎2005 アメリカとイギリスに現地法人を設立

●2006 X線異物検出機「KD74シリーズ」

◎2008 タイ工場が操業開始

●2008 金属検出機「スーパーメポリIII duw-hシリーズ」

●2011 オートチェッカ「SSVシリーズ」

●2011 X線異物検出機「KD74シリーズ デュアルエナジーセンサー搭載機」

●2012 金属検出機「スーパーメポリIIISシリーズ」

◎2013 中国工場が操業開始

●2013 金属検出機「スーパーメポリIVシリーズ」

●2014 金属検出機「M5シリーズ」

●2014 X線検査機「XR75シリーズ」

—2015 アンリツインフィビスに社名変更